

バルカン地域研究の新展開

— 民族文化の越境・接触・変化をめぐる多角的研究を目指して —

・ 企画概要

本企画ではバルカン半島に暮らす諸民族の文化の越境・移動・接触をキーワードに、人文学の各分野の観点からバルカン地域研究のあり方を問い直す。民族・宗教・言語・文化・歴史が複雑に絡み合うバルカンという地域を包括的かつ多角的に研究するためには、単一分野内の視点だけでなく、複数の分野にまたがる視点を持つことが重要であるが、そのような研究はそれほど容易ではなく、研究者間の協力なしにはその実現が難しい。歴史学、言語学、芸術学をはじめとする様々な分野の研究者の意見交換の場を設けることで、分野や専門地域の枠を越えた新たなバルカン地域研究の可能性を探ることを主な目的とする。

・ 構成

第一部では、基調講演者3名を迎え、日本におけるバルカン地域研究の発展と問題点そして今後の地域研究の展望をテーマにした基調講演を行う。第二部では、テーマ別研究報告セッションを二つ設け、若手研究者を中心とした研究報告および報告内容を踏まえた討論・議論を行う。尚、討論を促進するために各セッションに討論者を各1名配置した。

参加者：

第一部基調講演

柴 宜弘 (城西国際大学特任教授)

三谷 恵子 (東京大学教授)

鐸木 道剛 (東北学院大学教授)

第二部研究報告

鈴木 健太 (東京外国語大学)

門間 卓也 (東京大学・院)

上畑 史 (日本学術振興会／国立民族学博物館)

村上 亮 (日本学術振興会／京都大学)

木村 真 (日本女子大学)

中澤 拓哉 (東京大学・院)

岡野 要 (京都大学・院)

日高 翠 (日本学術振興会／東京藝術大学)

菅井 健太 (筑波大学)

山崎 信一 (東京大学)

銚川 貴久 (東京大学・院)

アドバイザー：野町素己 (北海道大学教授)

日時：2018年2月3日(土) 10:00-17:15 場所：東京大学本郷キャンパス文学部法文2号館2番大教室
主催：地域研究コンソーシアム(JCAS) 共催：京都大学東南アジア研究研究所 後援：日本スラヴ学研究会